

事業所及び医療機関、福祉施設等へのヒアリング結果

1. 道民、市町村、関係団体等からの意見聴取について

区分	調査対象	調査期間	備考
道民意識調査	1,500 名を 150 地点から無作為抽出 回答数(率) : 615 (41.0%)	7/26~8/14	第 5 回 会 議 で 報 告 済
市町村・団体 アンケート	回答数 : 179/179 市町村、65/65 団体	7/26~8/14	
事業所等ヒア リング調査	地域の事業所、医療機関、福祉施設等 訪問数:45 市町村・61 箇所	8/18~10/20	今 回 の 会 議 で 報 告

2. 対象業種 (※日本標準産業分類(大分類)による)

- ・ 宿泊業、飲食サービス業、運輸業、卸売業、小売業、生活関連サービス業、娯楽業、製造業、建設業、教育、学習支援業、サービス業(他に分類されないもの)
- ・ 医療、福祉

3. 主な調査内容

- ・ 事業への影響と現在の状況
- ・ 影響の要因や対策、支援制度の活用状況
- ・ 新型コロナ対応に関する意見

4. 主な意見

<事業への影響>

宿泊業

- ・ コロナ発生初期が宿泊も宴会も大きく影響を受けた。(ホテル)
- ・ 令和4年にはホテル稼働率は8割、令和5年はコロナ前と同水準まで回復。但し、宴会は8割までしか回復していない。なお、売上は宿泊より宴会の方がやや多い。(ホテル)
- ・ 宿泊者は元々ビジネスの方が多く、周辺の工事の作業員等で平日はほぼ埋まってお
り、宿泊面での影響はなかったが、宴会や貸会議室はほぼゼロとなっ
てしまい、その関連での影響が大きかった。(ホテル)
- ・ 日帰り入浴事業は地元住民に利用されていたが、コロナの影響で密接を避ける傾向
から売上が落ちた。その時に退職したスタッフの補充も中々できなかった。その影
響でレストラン事業は閉店してしまい大打撃だった。(ホテル)
- ・ 支援金の手続きは会計士が対応したが、他の会社では、パソコン上で何回申請して
もはじかれる、これは難しい、無理だという声や、もう少し気持ちよく貸してくれ
ればいいのにといい声をよく耳にした。(ホテル)
- ・ GOTO トラベルはビジネス系のホテルは恩恵がなかったのでは。全部の施設に平等
は難しい。旅行支援は手続きが非常に難しかった。制度内容も事前に教えてほしか

った。(ホテル)

- ・ テイクアウトの弁当などを企画したが、収入の柱にはほど遠かった。(ホテル)
- ・ 毎年、借り入れせずに設備投資を計画していたが、コロナの影響で設備更新が出来なかった。今は売上が戻らない中で、設備投資が必要になり、資金繰りが大変な状況。宿泊単価を上げることも中々出来ない。(ホテル)
- ・ 企業や地域の住民にチラシを配布し営業活動をしたら、地元の方たちが泊まりに来てくれたり、愛犬と泊まれるプランを作ってみたら好評で泊まりに来てくれる方がいた。(ホテル)
- ・ 新たな宿泊プランを考えたり、営業活動をしたり、コロナがあって考え方を考えることができた。(ホテル)
- ・ 形態をゲストハウスにすることも考えたが、支援・補助を探すことができず断念した。(旅館)

飲食サービス業

- ・ 宴会部門はコロナ拡大後の5月には売上がゼロになってしまった。(レストラン)
- ・ コロナ前は毎年参加していたオータムフェスタやよさこいなどのイベントが無くなった影響が大きかった。(レストラン)
- ・ レストランと菓子等の土産販売をメインにしているが、特に、レストランへの影響は大きかった。休業の間はもちろん売上ゼロ。再開後もコロナ前の5分の1、10分の1といった客入りの状況が続いた。(レストラン)
- ・ 客入りについては、緊急事態宣言などの終わりが見えてきた段階で混み出すが、実際に宣言が解除になると他の施設にも流れる影響なのか、客が減る傾向があった。(カフェ)

運輸業

- ・ コロナ禍でも年配者の病院送迎などの昼間の利用はあったが、夜は飲食に出る人がいなくなっておりかなり影響が大きかった。(ハイヤー)
- ・ 行動制限の中にあっても、バスは止めるなということだったので、ほとんどカラの状態でも走っていた。(バス)
- ・ 運転手等の基本給は維持したが、その他の手当を支給できなかったため、別の仕事に移った人が多かった。(バス)
- ・ 学校が休校でも路線バスを動かさなければいけないジレンマがあった。(バス)
- ・ コロナ禍で都市間高速バスで8割、路線バスで4割程度の減収となった。(バス)
- ・ 社内でクラスターが発生し、濃厚接触者を含めると45名程度の規模となったことから、バスの運行が日祝限定運行となった時期もあった。(バス)
- ・ 学校の一斉休業で、バス定期券の払い戻しがあり資金繰りが大変だった。(バス)
- ・ コロナを原因とした運転手の退職はなかったが、新規採用を見送ったので、運転手は不足している。(バス)
- ・ 行動制限などにより、会社の売上・輸送量の激減につながったのが一番大きい影響。観光客の利用は減ったが、生活物資の輸送は多少増えた。(フェリー)

卸売業、小売業

- ・コロナの影響による休業中に店の退職者が出たりして人材は不足しているが、求人アプリを利用してなんとか人手不足を解消している。(土産物販売)
- ・コロナ禍でも小学校の修学旅行があったので店として助かった。(土産物販売)
- ・コロナ禍でパート職員の採用は苦戦すると予想していたが、やはり客対応ということもあるのか、中々採用は増えなかった。(商業施設)
- ・コロナ禍では、不特定多数の方との接触の不安や、マスクの供給に対する苦情対応などがストレスで退職希望者が一定数いたので、住民への広報を工夫してほしかった。(商業施設)
- ・行動制限に伴い部活動やグループ活動の停滞により、売上は約2割程度減少した。(スポーツ用品)
- ・スポーツウエアやシューズは海外などから仕入れていたが、コロナの影響により供給が滞るようなことはなかった。(スポーツ用品)
- ・コロナ禍においても青果部門については、売上はさほど減らなかった。お客様はお年寄りが多いが、お年寄りは普通に買い物に来ていた。(青果販売)

生活関連サービス業

- ・展望台の入場料が主な収入のため、客が減った分を補てんするため入場料を値上げした。(観光施設)
- ・ゴールデンウィークが年間の来館者のピークだが、令和2年4月から5月は休業した。また、それにより、商品の賞味期限切れが出たので、宅配をやったり、割引販売をしたりした。(観光施設)

娯楽業

- ・コロナの休業中に、固定客が離れてしまった。(リラクゼーション施設)
- ・コロナの影響でゴルフ場の来場者数が非常に少なくなり、2～3割減った。コンペのキャンセルも多く、当初の頃は相当苦戦した。(ゴルフ場)
- ・ゴルフ場会員は高齢者が多く、本州で発生した観光船内での感染拡大以来、恐怖心を持ち、寄り付かなくなった。(ゴルフ場)
- ・ゴルフ場から空港が近いので海外の団体客もいたが、中国・韓国の直行便がこなくなったので打撃があった。売上の的には数千万の落ち込みがあった。(ゴルフ場)

製造業

- ・内食需要が高かったため、コロナ禍による売上減少はなかった。(菓子製造)
- ・コロナ禍でデパートや空港の店舗は菓子の売上が減った時期もあったが、スーパーなどの店舗では、逆に売上が増えた。(菓子製造)
- ・コロナ禍では、外食、観光土産物店、ホテルなど、どこも客が来なくなって食品の売上が落ちたが、地元のスーパーや物産展での売上は良かった。(食品製造)
- ・当初は感染症の正体がわからなかったので専門家の指示に従わざるをえなかった。行動制限は仕方ないと思っている。(食品製造)

- ・コロナ禍で従業員の就業日数を減らしたが、リストラは行わなかった。食品販売などの就業日数が減った分の補助を会社だけでなく、個人でも申請してもらった。社員は手当の2割カットを実施したが、去年は業績回復したため、カットした分を支給した。(食品製造)
- ・繁忙期に工場内で感染者が拡大したのが大きな影響。延べ50名弱の感染者が出た。パートを送迎するバスの運転手も感染してしまった。人のやりくりが大変だった。(食品製造)
- ・ダメージが大きかったのが学校給食がゼロになったこと。物流が止まってしまった。その反面レトルトカレー、カップヌードル系の数字が伸びたので結果としてカバーできた。(食品製造)
- ・コロナ禍において外食が避けられ、自宅での食事が好まれるようになったことから、加工商品がよく売れるようになり、売り上げも増加した。(水産加工)
- ・加工原料の多くを海外から輸入しており、コロナ禍では現地の働き手の不足により、原材料費が高くなった。(水産加工)
- ・加工工場で海外の研修生も受け入れていたが、入国できずにストップしてしまった。帰国したい人もいた。(水産加工)
- ・海外への渡航禁止や正月帰省が自粛されていた頃、おせち需要がものすごくあった。令和4年になってからは正常に戻ってきた。(水産加工)
- ・加工商品の落ち込んだ分は、都市圏のスーパーに営業して販売できるようにしたり、インターネット販売を開始したりした。(水産加工)
- ・コロナ禍において酒瓶工場が閉鎖。その影響で、現在、瓶不足に陥っている。また、後片付けが楽ということで紙パックの安いお酒が選ばれる傾向も出てきた。(酒類製造)
- ・関連する観光施設を令和元年度にリニューアルしたため、リニューアル効果による来客もあり、コロナ禍でどの程度ダメージを受けたか単純な数字での比較はできないが、一番影響を受けたときにはコロナ前の1割程度まで減った印象。(酒類製造)
- ・ワインも業務用の販売が落ち込んだことから、減収となった。(酒類製造)
- ・酒類販売のイベントの実施などには慎重にならざるを得ず、国や道には、イベント実施にあたる業種ごとのガイドラインを早期に示していただければ、それを後ろ盾にイベント等を実施できたかと思う。(酒類製造)

建設業

- ・海外でのコロナ拡大により、輸入がストップし、国内の木材価格が上昇するといった影響が大きかった。(建設資材販売)
- ・製材業界では木材単価の上昇により売上が大幅に増加し、従業員の賃金も上げることができた。(建設資材販売)
- ・コロナで工事が中止になることがなかったので会社の売上は減少せず、支援金は申請していない。(土木工事)
- ・業態として公共工事が8割を占めており、工期の多少の後ろ倒しはあったものの、

工事の受注については、コロナ禍において大きな影響は受けていない。(機械施工)

教育、学習支援業

- ・観光事業・バス事業については、コロナ前と比べ2割まで激減。スクールバスの運行業務なども行っていたため、運転手はそちらの業務にシフトした。バスも多くがリース車両であったことは幸いしたが、観光・バス部門だけでは車両や人件費の維持はできていなかった。(自動車学校)

医療、福祉

- ・当初、患者を受入れしている病院だとこのことで、住民感情として、受診控えの影響があった。患者が増加してからは、逆に受入れしてくれる病院だと評価が一変した。(医療)
- ・患者が減少した要因が、受診控えなのか、人口減少によるものなのか、分析は難しい。(医療)
- ・症状に応じた医療機関の役割分担のコンセンサスが無く、軽症の患者が運ばれてくるが多かった。(医療)
- ・医業利益は数億円規模で減少するなどの影響があった。(医療)
- ・町外の患者を受け入れた際の退院時の対応について、管轄保健所により異なっていたので、統一してほしかった。(医療)
- ・病院勤務しているという理由でご近所の方から家族が避けられる例が一部あった。スタッフの感染等でどうしても適切な配置ができない日が1日あり、国からの指摘があった。もっと柔軟な対応をしてほしい。(医療)
- ・保育所登園にあたり、医療従事者への差別が辛かった。(医療)
- ・一時50名以上の欠勤者が出て、病棟運営が困難な状況となり、一部の診療制限を行った。(医療)
- ・施設の職員体制確保には苦慮し、超過勤務等で減益となり、運営上、初めて増収・減益となった。(福祉)

<支援制度>

宿泊業

- ・旅行支援はクーポンの管理や事務手続きなど、ホテルの人手が足りない上に手間がかかって大変だった。(ホテル)
- ・宿泊業はどこも人手不足でこれからは人手がなくてもやっていけるように考えていかなければならない。例えばオートチェックインなど。ホテル業の規制を緩和するために法律の改正も必要ではないか。(ホテル)
- ・支援制度は助かったが、手続きが煩雑で手間かかったことでホテルの人件費などのコストが増加したのでもう少し簡素化していただきたい。(ホテル)
- ・時短要請等の支援金の額は売上規模等で細かく分けても良かったのではないかと。影響が大きい事業者への支援が手薄になっていたように思う。(ホテル)
- ・支援制度について、短期間で制度を作るのは大変なのは理解するが、支給される金

額は一律ではなく、その会社の規模に合わせたものにしていただきたかった。(ホテル)

- ・旅行支援事業はお客さんが電子クーポンの使用方法がわからず、スタッフが説明するのに大変だった。ホテル的には紙の方がありがたい。(ホテル)

飲食サービス業

- ・カフェ経営の他にインターネット販売の売上があったため、持続化給付金の対象にならなかった。(カフェ)
- ・菓子売上の減少等の影響がなかったため、支援金は申請しなかったが、制度や支援金の種類等について周知不足と感じた。(カフェ)
- ・行動制限や時短要請は仕方なかったと思う。実施した期間に不満はない。但し、期間が明けた後に、間髪入れずに飲食店への支援策が欲しかった。(仕出し)
- ・宴会などの仕事がない時期は従業員を休ませた。雇用調整助成金は非常に助かった。これがないと持ちこたえられなかった。(仕出し)
- ・飲食店へのまん延防止支援金や持続化給付金は入ってきててもすぐに支払いに回さなければならず、余裕が全然なかった(仕出し)
- ・令和2年5月に新店舗のレストランをオープンする予定であったが、コロナの影響で延期になった。その際、家賃支援給付金はまだ店舗の使用実績が無いとの理由で対象外となってしまった。(仕出し)
- ・飲食店への道や市のクーポンは十分役に立った。売上の補填に効果があったと思う。(レストラン)
- ・GOTO トラベルなど需要喚起策が行われている期間は、飲食店の売上は回復し、ほぼコロナ前の状況だった。(レストラン)
- ・休業中は飲食店従業員を休ませた時期もあった。厳しい期間ではあったが、その間に社内のルールや制度の整備を行うなど有効に活用できた部分もあった。(レストラン)
- ・家賃支援給付金はもっと続けてほしかった。当社はテナントを借りているものもあれば、テナント貸ししているものもあり、払う立場、払ってもらう立場、両方の立場で苦しい思いをした。(レストラン)
- ・行政の対応は概ねよくやっていただいた印象だが、助成金や給付金などが急に決まることが多く、その都度対応に追われたので、長期的なプランニングのもと、実施していただければありがたいと感じた。(レストラン)
- ・支援金の情報について、パソコンやスマホが苦手な年配の事業者には情報収集が難しかった。(居酒屋)
- ・支援金の申請先の窓口がバラバラだし、手続きも煩雑で年配者には難しかった。(居酒屋)

運輸業

- ・コロナの支援は、飲食店向けのもが多く、他の業種も影響があったのにあまり目を向けてもらえなかったように思う。(ハイヤー)

- ・コロナでの借入額は数億円で、少しずつ返済はできているが業績悪化で大分厳しい状況のため、例えば、更に借入可能な制度や延滞出来る制度等のフォローがほしい。(バス)
- ・「ぐるっと北海道」はタクシー会社等の異業種との連携がくれたことは大きく、今後のつながりができたことは有益であった。(バス)
- ・例えば、バスの運行継続支援として、人流を抑制しても路線バスなどを動かすのであればそれに対する補助を、若しくは、止めてもよいとの判断をさせる等の支援があると非常に助かる。(バス)
- ・一時金等での支援ではなく、年間の収支等で判断しての支援方法を検討してはどうか。(バス)
- ・各種補助金や助成金は使えるものは使ったが、バス会社の社員数からして効果は限定的。また、単なる支援金支給ではなく、何か事業を実施しなければならないなど、活用するにしても事業者側に負担が生じるものが多かった。(バス)

卸売業、小売業

- ・支援金については、常にホームページなどで情報収集して、使えるものは使った。特に雇用調整助成金は非常に助かった。無利子の融資も活用した。(土産物販売)
- ・ホテル業には「旅行割」などの支援があったが、レストラン、土産物店にはそういった支援がなかった。同じく大変だったのに声が届いていなかったのかと感じる。(土産物販売)
- ・各種支援制度の案内は商工会や市から頂いていた。雇用調整助成金等を活用したが、不慣れなこともあり、手続きに苦労した。もう少し簡略化しても良いと思う。その他支援制度についても売上要件などハードルが高いので活用できなかったものもある。要件の緩和など改善して欲しい。(スポーツ用品)
- ・売上減が要件となっている支援制度については、独自の工夫により、頑張っって売上を維持しているお店にとっては不公平だと感じる。(青果販売)

生活関連サービス業

- ・行政からの支援は、持続化給付金や雇用調整助成金、まん延防止等重点措置協力金を活用。情報は商工会を通じて入手していた。各種申請手続きは会計士に実施してもらっていたため対応はできたが、煩雑な印象。支援に関する広報、わかりやすい説明があると良かった。(観光施設)

娯楽業

- ・まん延防止等重点措置協力支援金の対象が飲食店だったので、支援を受けることができなかった。他の業種も影響を受けたのだから支援があってもよかったと思う。(リラクゼーション施設)
- ・国と道の融資を活用した。他の補助金は前年対比の条件などで中々該当しなかった。借入金は助かったが、借りやすくなったので必要以上に借りてしまうケースが多いと思う。(ゴルフ場)

- ・陰性であることを確認するための検査キットが高いので、次の危機の際には一部補助があればありがたい。(ゴルフ場)

製造業

- ・持続化給付金が一番ありがたかった。簡単な手続きですぐに支給された。(食品製造)
- ・補助金の解釈で、国でもらえない部分を道からもらえると理解していたがそうでないところもあり、認めてもらえないなところもあった。会社の登記書類を添付しなければならなかったが、法務局が都市部にあり、取り寄せるのに時間がかかった。(食品製造)
- ・COCOAアプリはユーザーが使いやすいようにしてほしい。(食品製造)
- ・陰性になったときの検査証明を無料にしてほしい。従業員は無料にしないと受けてくれない。高額なため、従業員に受けてこいとは言えない。それなりの措置が必要だと思う。(食品製造)
- ・持続化給付金は要件が厳しく申請できなかった。小売業で要件の3割減は死活問題レベルの状況であるため、1.5割減程度でもいただくと助かる。(食品製造)
- ・電子クーポンでアプリをインストールしないといけないタイプのクーポンは、お店の対応が大変なので改善してほしい。一人一人の接客に時間がかかり現場が混乱した。バスツアー客が多いとバスガイドも車内でアプリのインストールなど対応しきれないようだ。紙クーポンの時はその分だけお店の売上に貢献していた。(酒類製造)
- ・子供がいない人は休めませんというのは不公平なので、「小学校休業等対応補助金」の制度は採用しなかった。(容器製造)

建設業

- ・前年比売上増のため支援金や持続化給付金は対象にならなかった。(建設資材販売)
- ・今後、新たな感染症が発生した場合は、感染した人や感染者が出て売上が減少した企業への支援だけではなく、感染者を出さなかった企業に対する奨励金のようなものがあると、より多くの企業で感染症対策に対する意識が高くなるのではないか。(機械施工)

教育、学習支援業

- ・市の補助金は事業者同一金額であったが、従業員数に応じて補助してほしい。
- ・今後の融資の支払いが大変になってきているので、国が中小企業の銀行金利を負担してほしい。(自動車学校)

サービス業

- ・クーポン、プレミアム商品券は車検で使う人も結構いて、経営的に助かった。(自動車整備)

- ・地元自治体の融資制度を活用した。道や民間公庫に比べ条件が良かった。（自動車整備）
- ・個人でやっている飲食店の廃業はなかったと聞いているが、なぜ飲食にだけ支援という話も聞こえてきていた。（自動車整備）

医療、福祉

- ・令和2年2月～3月において、コロナ対応に伴う入院外来診療制限に対する補助制度が無く、大幅な赤字収支となった。（医療）
- ・補助金のおかげで何とかあったが、1割くらいは収入が落ちた。ただ、収入面では以前のレベルに戻っておらず、地域医療を継続するのは大変。（医療）
- ・介護従事者の派遣を受ける場合、職員手当などの条件も、依頼する施設が決めなければならない、事務負担が非常に大きい。ICT化や単価の全道統一化が出来れば良い（福祉）
- ・コロナ禍の中でチャレンジ奨励金を利用し、3名雇用した。（福祉）

<感染対策>

宿泊業

- ・宴会場のテーブルの着席を4人制にしたり、距離を取るなど感染対策に苦労した。（ホテル）
- ・アクリル板や消毒液、バイキングの際の手袋、体温測定器などの感染対策に必要な備品購入は支援金を活用した。（ホテル）
- ・初期の頃に、感染していることを知りながら宿泊した客がいて、大がかりな消毒作業を行わなければならない、大変だった。（ホテル）
- ・コロナになってから1室3名だったものを1人1部屋の仕様に変更せざるをえなかった。その分、稼働につながらず、売上が減少した。（旅館）
- ・感染対策として食堂と部屋に空気清浄機を置いたが、高額であり、リース払いにした。リースの場合、補助の対象にならなかった。結構な負担になっている。（旅館）

飲食サービス業

- ・新店舗のレストランの席の背もたれを高くしたり、個室化したり、できるだけ感染対策仕様にした。（仕出し）
- ・以前はビュッフェスタイルだったものをオーダースタイルに変更した。コロナ後もコロナ感染のイメージや迷惑動画のイメージ、原価高騰の影響などもあり、ビュッフェスタイルには戻していない。（レストラン）

運輸業

- ・運転手がコロナに感染しないように、運転手同士の接触機会を減らすため、出勤時間をずらしたりしたので、感染による人手不足はなんとか回避できた。（ハイヤー）
- ・船員を含めた従業員が感染してしまい、フェリーの減便を余儀なくしなければならなかった。感染対策のマスクや検査代などの経費が結構かかった。特に体温感知す

るカメラなど高額だった。修理する場合も国内に部品などがなく、時間がかかった。
(フェリー)

- ・パーテーション等の感染防止対策に関する補助金は助かったが、できれば事業者負担が無い制度にしてほしかった。(バス)

卸売業、小売業

- ・コロナで土産物店でもキャッシュレス決済が進んだように思う。手数料のことを考えると厳しいが、今はどこでも使えるようになってきているので整備しなければと思っている。(土産物販売)

生活関連サービス業

- ・アクリル板の設置や消毒液の購入など感染対策に経費がかかった。(観光施設)
- ・店内でのマスクの脱着について、お客様同士で言い争いとなり、警察を呼んで対応するといったトラブルがあった。様々な制限のある生活でストレスを抱えている方が多かったのではないか。(観光施設)
- ・エレベータの人数制限、消毒液の設置など感染対策の設備に経費がかかった。(観光施設)
- ・職員の休憩所をバラバラにするなどして感染を防いだ。(観光施設)
- ・店内の感染対策をしっかりとって営業したが、営業を開始したら周りから何か言われるのではないかとビクビクしながら営業した。(観光施設)

娯楽業

- ・コンペルームでの会食・表彰式が出来なくなった。食事する場合は、通常の黙食で対応してもらった。(ゴルフ場)
- ・感染対策に係る経費がかかった。受付入口に設置する体温センサーもほしかったが手が回らなかった。(ゴルフ場)

製造業

- ・社内で感染者が出たときの業務継続ガイドライン(BCP)を作成した。振興局主催の勉強会にも参加した。(食品製造)
- ・工場で使う手袋・マスクの調達コストが結構かかった。手袋の入手困難は本当に困った。死活問題だった。(食品製造)
- ・PCR検査キットの経費も大きかった。研究用キットの精度もいまいちだった。陽性の人でも反応が出なかった。(食品製造)
- ・社内でまん延しないように調子が悪い人には積極的に休ませた。(容器製造)
- ・工場内では従来から衛生対策をしているので特段、コロナ対策をしていないが、事務所では、パーテーションの設置や消毒液の設置、体温計測などの対策は行っていた。(水産加工)
- ・コロナ禍で社員が感染等した場合は特別休暇、5類以降後は有給休暇とした。(水産加工)

建設業

- ・ 社内の感染対策でアクリル板や消毒液の設置で経費がかかった。(土木工事)

教育、学習支援業

- ・ アルコール消毒の準備や従業員の車両消毒等の手間は増えたが、経営的にコロナ禍の影響はほぼ受けていない。(自動車学校)
- ・ 教習生のオンライン授業を導入した直後にコロナが発生したため、授業で密になることを避けることができた。集団で実施する教習なども人数を減らすなどの対応を行った。(自動車学校)

医療、福祉

- ・ 感染防護具を着用しての患者対応、電話対応、PPE着脱、廃棄物処理等の手間が大幅に増加。廃棄物処理対応については、捨てるのにも経費がかかり、事務サイドでの負担が大きかった。(医療)
- ・ 医師、看護師などの医療スタッフが、ガウンなどの感染防護具を着用して万全の体制で診療などの対応を行っていたため、負担が大きかった。(医療)
- ・ 院内クラスターは全ての時期においてあったが、最初の頃に、道の医療参事に来てもらい、ゾーニングなどの支援をしてもらい大変助かった。その後は、その時のノウハウがあったので、順調に進めることができた。(医療)
- ・ 手術室で使用する衛生材料が不足し、海外製の物資は中々届かないケースがあった。(医療)
- ・ クラスターの収束まで、長い時で1ヶ月ほどかかった。その際には、道の保健所が対応してくれたが、PCR検査も実施してもらい、特に不満はなかった。(福祉)
- ・ 障がい者向けの就労支援事業会社の職場が古い建物だったので冬場の換気は難しかった。(福祉)

<事業環境の変化等>

宿泊業

- ・ コロナ前は「会議+懇親会」というセットが多かったが、ほぼゼロとなった。自粛期間が終わっても、懇親会は行わず弁当のみなどの予約が多かった。(ホテル)
- ・ 常連の方々がコロナ感染を不安がり、非常に少なくなった。将来を考えると、外国人の需要は時代に左右されるため、コロナ前から団体のインバウンドはお断りしていた。そういうことから、コロナ禍では他の宿泊施設は外国人客の減により1割しか稼働していない状況でも、弊社は国内客の利用で6割くらいは稼働していた。(ホテル)
- ・ 設備業者へ発注してもモノが入りづらかったり、人手不足により、対応が遅れることが多い。(ホテル)
- ・ 冬場になると宿泊が減るので、コロナ前はその間、地元の宴会需要があったが、渦中の頃はゼロになり、今も宴会はやらなくてもいいのではという雰囲気がある。(旅館)

飲食サービス業

- ・カフェ来店者が減少したため、お菓子のインターネット販売に切り替えた。(カフェ)
- ・コロナを機に法事や宴会のスタイルが変わった。昔のように大勢で集まるようなものが見直しされ、良くも悪くもシンプル化が広まった。利用者の意識も変化してきたと感じている。(仕出し)
- ・以前の法事はお膳で、配送と回収が必要であったが、今は、お膳から弁当スタイルに変化し、配送のみの対応となった。(仕出し)
- ・時短などの影響で、コロナが落ちついた今でも、2次会へという流れが無くなって、飲食に出ても早く切り上げて帰るようになったように感じる。スナックは営業を続けていくのが厳しい状況だろうと思う。(居酒屋)
- ・通販、お取り寄せがブームになった時期には、今までの10~20倍の通販注文が入った時期もあった。地元のアスパラと当社の製品をセットで販売するなど、これまでになかった取組もできた。(レストラン)

運輸業

- ・テレワークの普及により、都市間バスを利用する乗客が減少した。(バス)
- ・バス業界では、人材が退職する傾向にあり、反面、トラック業界は巣ごもり需要で賃金アップされるなど人材確保の面で厳しい状況となっている。(バス)

卸売業、小売業

- ・カフェ部門は低迷。なんとかしようと自宅での飲食需要増に合わせて、テイクアウトできるカットフルーツの販売を開始し、順調である。(青果販売)
- ・最近の傾向として店舗の無人化等が進んでいるが、商売は対面でコミュニケーションを図りながら行うことが大事だと思う。最近、お年寄りが怒りやすいと感じる。コロナ禍によるコミュニケーション不足が原因ではないかと思っている。(青果販売)
- ・当初、商品販売は高齢者向けに電話・FAXで受付としていたが、子ども世代が親に代わってネット等で注文を行うといった需要に気がつき、持続化給付金を活用してネット環境を整えた。(青果販売)
- ・コロナ禍では、アパレルや旅行関係は減収、食料品はあまり影響なし。また、ネットスーパーの認知が広がり、以前より売上が拡大した。(商業施設)
- ・コロナ禍における消費者の行動としては、特売日などの混むタイミングを避けて、まとめ買いをする人が増えた。(商業施設)

生活関連サービス業

- ・お客が来ない暇な時間があったので、施設の改装などの設備投資を行い、お客が戻ってきた時のための準備ができた。(観光施設)

製造業

- ・コロナで売上が落ちたときに「ワケあり商品」としていろいろなものを詰め合わせにして買い取り、販売してくれた会社があって大変助かった。(食品製造)
- ・容器製造については、行動制限で住民が町に出ないことから、百貨店に行かなかつたり、化粧品需要が落ち込んだり、観光客が来なくなるなど、物が売れない影響も出た。その反面、消毒に関する物がものすごく売れ、カバーできたおかげで極端な売上減にはならなかった。(容器製造)
- ・宅配の需要が増えた影響により、家庭用の冷凍食品が売れて、売上をカバーしている状態。外食が減ったので家でつまめる珍味の需要があった。急に忙しくなった時期もあった。(水産加工)
- ・人員も限られているのでオンラインに本格的に力を入れた場合、発送業務等に対応できない等の懸念材料もあった。(酒類製造)

医療、福祉

- ・コロナの影響で実習が中止になり、現場未経験のまま就職してきた看護師は、コミュニケーション能力やメンタル面等に不安を抱える人材が多いと感じる。(医療)
- ・コロナ対応が負担で辞職した医者がいた。看護師、薬剤師だけでなく、給食調理員など関係するスタッフが戻りきっていない。(医療)
- ・施設の嘱託医が感染した際には、医療面でのバックアップがなくなる。施設に看護師はいるので、オンライン診療が広がれば安心出来るのではないか。また、こうした際には、道立病院の医師に対応していただくなどがあれば更に安心できる。(福祉)